

# 町田通勤寮だより

NO 56 2016年 3月

社会福祉法人つるかわ学園 東京都町田通勤寮

〒194-0045 東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042(739)0491

## 巻頭言

あの時以来、毎年三月になると大震災関連の報道がなされます。今年は「あれから五年」ということで、「もう五年」、「まだ五年」という表現が目立った気がしますが、その多くが復旧、復興が進んでいないというニュアンスの報道だったように思います。

岩手県、宮城県では沿岸部の「嵩上げ」工事や「防潮堤」の進捗状況と住民の状況が中心で、地域ごとの様々な努力の一方、時間の経過とともに「生活再建」と「地域再建」が困難さを増していくこと。福島県については、それらに加えて「原発」事故による多重的な困難さを指摘していました。「社会資源の整備」と「地域帰還」について、「鶏と卵」論のようなものも見受けられましたが、本質的な問題は別にあるように思います。

話は変わりますが、近年、福祉も「改革」ということで「自助努力」が声高に言われ、「福祉とは人権保障である」と学んできた私として

は、強い違和感を感じています。

「福祉改革」が進められ、福祉も「経営の時代」と言われています。「効率化と収益確保」は事業継続のためには必要なことではありませんが、「対人サービス」としての福祉は「時間の継ぎ」で事足りるわけではありません。事業者として最大の課題は「人材」の確保と育成と言われる所以です。人材不足と言われていますが、引き続き努力をしてまいります。

いよいよ四月から「町田通勤寮」の運営が始まります。私の好きなアーティストの歌に「この世は、弱い者には冷たいね。」という一節があります。弱いのものにこそ優しい世であってほしいものですし、私なりに取り組んでいきたいと思えます。

(寮長 三階広明)

## 研修報告から「虐待防止研修」

2月23日、立教大学コミュニケーション福祉学部角田慰子助教を講師としてお招きし、町田市障がい者グループホーム等連絡会主催「グループホームにおける虐待防止について」というテーマで講義をしていただきました。虐待防止法及び障害者差別解消法等、時代に合わせ利用者の人権を擁護するための法律が新たに制定され、我々福祉サービスを提供する者としても熟知すべきテーマであります。日頃からグループホームの歴史研究をされており角田先生は、現在オンブズマンとしても活躍され、現場にて直接利用者の皆様と言葉を交わされています。その為、法律の勉強というよりも、実際に利用者の皆様との

関わりから感じたことや、現在大学にて福祉現場実習をご担当されている関係から、実習開始前と終了後の学生の気持ちの変化など、様々な視点から「利用者支援」についてお考えを述べられており、非常にわかりやすく、参加した世話人の皆様からも大変ご好評をいただきました。コメントーターとしてサポートさせていただいた谷本からは、現在の通勤寮利用者の意識として「グループホームの世話人」像に関し、これまで「家庭的」な要素（家族・仲間意識）を求めていた時代から、現在は「自分主体」（個別）の要素を望まれている傾向、また世話人を「母親代わり」ではなく「職員」として見る傾向が以前よりも顕著な点をコメントさせていただきました。そういった利用者のニーズを取り違えてしまうと、それらが「虐待」と捉えられてしまうこともあり、支援者側のスタンスや意識を変えていく必要も感じました。最後に虐待に至らないために大切なこととして「何が虐待にあたるのか」を知ることと同時に、自分の心身の状態を最善に保ち支援にあたる事が重要であると教えていただきました。自分が利用者の言動などに対してどのように反応する「傾向」があるのかを知る事（自己覚知）が支援者としてとても大切な要素であると述べられました。角田先生が実践されているように、利用者の心に寄り添い、彼らのニーズを的確に読み取れるよう、我々も日々努力を惜しむことなく励んでまいりたいと思います。

（主任支援員 谷本洋）

## 防災講座——立川防災館

2月28日、防災講座の為立川消防署敷地内にある立川防災館に行ってきました。講座内容は、①防災ミニシアター（3.11の実際の映像）②地震体験 ③煙体験 ④応急救護体験 ⑤消火訓練 の五つの訓練を受けてきました。講義は、消防士を引退された方が行い、実際の現場での出来事を交えながらの説明だったので内容の濃い説明となり、自然に質問する利用者もおり積極的に参加することができました。実演では特に、消火訓練や応急救護体験（心肺蘇生）では、真剣な表情で訓練に参加している姿が印象的でした。

寮内でも月一度の避難訓練を実施しておりますが、訓練馴れしてしまい緊張感・危機感に欠ける場面も多々あります。年一回の防災講座を設ける事で、改めて日々の避難訓練の重要性や災害はいつ来てもおかしくない状況を知る良い機会だったのでないのでしょうか。

更に話しの中にもありましたが、3.11の際、都心でも帰宅困難者が多数おり大パニックになりました。何時、何が来るか分からないこの時代、自分の職場から自宅までの道のりを知っておいた方が良いという話もありました。道のりだけでなく、様々な状況を想定し、利用者が安全に帰宅できる環境を整えておかなければならない事も、今回の防災講座で私達職員も考え直さなくてはならないと実感し、今後に繋げていきたいと思いました。まさに、『備えあれば憂いなし』ですね。最後に、利用者の皆様には、地震や火災などの災害は『他人事ではない』という事を感じて欲しいと思います。

（主任支援員 武智里峰）

## 新年会

1月24日、寮内の食堂・集会室にて新年会及び成人を祝う会が開催されました。天気予報では数日前から大寒波による雪の予報でしたが、幸いにも降雪はなく、当日も青空が広がるなど、空模様も新成人の皆さんを祝福しているような穏やかな気候でした。

今年利用者さん、保護者、職員合わせて38名の参加となり、例年と比べると参加人数は控えめだったようですが、会自体は大変盛り上がり、和気藹々とした雰囲気の中、新成人となった男性4名、女性3名の利用者さんを皆でお祝いしました。

12時半、びしっとスーツ姿できめた利用者さん、保護者の皆様、職員が集まり、会は始まりました。廣本理事長、三階寮長のあいさつの後、自治会役員である利用者さんの乾杯の音頭を経て、豪華なメニューの会食へと会は進んでいきました。

調理の方々が朝から心を込めて作って下さった焼きそば、赤飯のおにぎり、シューマイ、寿司やピザなど、20を超えるたくさんのメニューに、参加者は舌鼓をうっておりました。13時からの成人祝賀会では、新成人の利用者さんがそれぞれ皆、いつになく凛々しい表情で、大人になった今年度の抱負、メッセージを述べておられました。中にはマイケルジョーダンの言葉を引用しながら、自分の言葉で素晴らしい決意を述べ、保護者の方や職員が感動する一幕もありました。そして会は地域生活援助センターフクシアの市川センター長からの激励の言葉、記念品贈呈、ビンゴ大会などを経て、盛況のままお開きとなりました。

改めて、新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。これから大人としての責任ある行動を周囲からも求められ、また期待されております。自分の言動に自覚を持ち、心の優しさと芯の強さをこれからも忘れず、皆さん自身の手で素晴らしい人生を切り開いていってほしいと願っております。

皆様の未来、今日の向こうに、どうか幸がありますように。

(支援員 新井政睦)



## 調理実習

2月14日に調理実習を行いました。

今回は、マカロニグラタン・手作りドレッシングのサラダ・コンソメスープそしてバレンタインデーにちなんでチョコレートスコーン

を入れた4品にチャレンジしました。スコーンを作るのはみんな初めてで、作る前からとても楽しみにしていてくれたようでした。思い思いの形に作り、こんがり焼き色がついたスコーン…無理を言って試食させて頂きました。ほんのり甘くサクツツとしていて 美味しく出来あがっていました。ごちそうさまでした。

メインのマカロニグラタンは、カップスープの素を使うことでダメにもならず失敗なく作ることが出来ます。マカロニと野菜さえ茹でておけば ひと鍋で作れることも、お手軽メニューのポイント。またスープの素の種類を変えるだけでいろんな味を楽しめます。オーブンなしでトースターで焼けるのも嬉しいですね。バレンタインデーの食卓を彩るホットな料理、今回も一生懸命作り上げてくれました。お疲れさまでした。

来年度も手作りの楽しさを実感出来る料理をぜひ一緒に作りましょう。よろしくお願いします。リクエストもお待ちしております。

(調理員 遠藤小百合)



## 地域生活援助センター・フクシアより

今年度もフクシアが運営するグループホームに通勤寮から6名の方が入寮され、新たに地域での生活をスタートさせています。ご存知の方もいるとは思いますが、ここで改めてフクシアが運営するグループホームについて簡単に説明をさせて頂きたいと思えます。

フクシアは、利用者の地域生活を支える拠点として、現在2事業所14寮のグループホーム運営を行っており、合計70名の方が利用されています。グループホームとは、障害をお持ちの方が、生活や就労面などである程度の援助を受けながら地域生活を営むためのホームです。基本的な身の回りの事は自分でできるように練習をします。グループホームでは、相談援助、就労支援、生活支援、余暇支援、金銭に係わる援助、通院同行や各種手続きに係わる援助、食事提供などのサービスを受ける事ができます。1つのグループホームには、4〜6名の利用者が各ホームに配属された世話人のサポートを受けて生活を共にしています。仕事から帰ってくると、世話人がいつも「おかえりなさい」と笑顔で迎えてくれます。食事については、朝・夕の提供を受ける事が可能です。フクシアのグループホームでは、旬の素材を使い家庭的な食事を提供する事を心がけていますので、季節を味わえる料理が多く「とてもおいしい」と好評です。

グループホーム生活にかかる費用は、原則すべて利用者の実費負担となります。収入などの状況や利用するホームによって若干金額は異なりますが、家賃・共益費・水道光熱費・食費などで7〜8万円程度、その他に生活費や余暇費などがかかってくるようになります。通勤寮と比較を

すると支出が多くなりますので、収支のバランスを考えて計画的にお金を使えるように訓練しておく必要があります。

通勤寮の利用期間である2年は、あつという間にやってきました。将来、自分がどのような生活を送りたいのか、地域生活講座やグループホーム体験などを上手く活用し、今後の進路検討に役立てて下さい。

(地域生活援助センター・フクシア支援員 大槻直也)

### 研修報告から―関東地区宿泊型自立訓練等協議会―

2月26日から27日の2日間に渡り、群馬県太田市にて関東地区宿泊型自立訓練等協議会、通称、関プロ研修が行われました。

今回の研修は触法ケース、つまり、罪を犯してしまった利用者への支援や対応を考えることがテーマとなります。

1日目はかなやま青年寮にて、1年の取り組みや利用者支援についてのお話が主となりました。中でも利用者による累犯ケースについてのお話は大変印象に残っており、同じ通勤寮と言えど、地域が違えば、ここまで支援の内容に差があるのかとショックを受ける程でした。細かい内容は個人の名誉もあるため、割愛しますが、刑事施設へ収容されることになってしまった利用者への対応など、試行錯誤しながら日々支援に取り組む支援員の方には頭が上がりません。

余談ですが、かなやま青年寮の利用者は町工場などで働いている方が多い様です。都内であれば、チェーン店などが中心となりますが、地域でこういった違いもある様ですね。

2日目は太田市福祉会館へと移動し、国立重度知的障害者支援施設

のぞみの園の小林課長による講義が行われました。のぞみの園は自立訓練ホームですが、刑務所や少年院などの矯正施設からも利用者を受け入れており、生活訓練を経てグループホームや単身生活に送り出すことを基本方針にしております。この情報だけであれば、イメージが固定されてしまうと思いますが、実際は利用者の行動を制限している訳ではなく、外出や買い物なども自由に出来ます。のぞみの園は支援を提供する中で生活の安定を図り、結果として再犯防止に至るといった理念を抱いており、福祉の視点を保っていることがわかりました。

2日間を通してまだまだ知らないことが山ほどあることを実感。かなやま青年寮の元寮長であった小川さんの「ピンチをチャンスに、通勤寮は人を作る場所」といった言葉が心に深く残っています。主催のかなやま青年寮の皆さん、おつかれさまでした。

(支援員 岩崎)

### 今後の予定

- 3月20日(日) 地域生活講座(グループホーム見学)
- 4月3日(日) オリエンテーション・BBQ
- 4月4日(月) 町田通勤寮民間移譲調印式(東京都庁)
- 4月10日(日) ハウスキーピング、クラブ活動(観桜会)
- 5月8日(日) 保護者会 13:45より

## 編集後記

早いもので今年度も終わろうとしています。「東京都町田通勤寮」としては最後の一年でした。今年度お世話になった保護者・関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

この季節になるとかつて習った漢詩を思い出します。それは「年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず」という詩句です。今年度は長く利用者さんに慕われていた警備員石原さんとの悲しいお別れに立ち会いました。昨年の初夏、中庭にいた私に後ろから石原さんが声を掛けてくれました。「あそこのシャクナゲを見てごらん。赤くて綺麗でしょう。十何年見て来たけど、左の方が早く咲くんだよ。日当たりが良いんだろうね。」長閑な会話でしたが深く心に残っています。花の話をしながら、石原さんは右も左も分からないまま働いている私を気遣って下さっていたのでしよう。そんな石原さんのさりげない優しさを忘れることが出来ません。

また四年に渡り支援を務められた岩崎支援員が異動で通勤寮を離れることになりました。仕事を一緒にしたのには二年足らずでしたが、大変な局面に当たっては、同い年の岩崎支援員が兄のように盾になり、私を守ってくれたことが幾度もありました。お別れするのは寂しいですが、益々のご活躍をお祈りします。そして岩崎支援員から教えてもらったことを支援に生かせれば…と願っております。

次号の町田通勤寮だより57号は5月8日発行予定です。

(編集部)